

## 1. 研究目的

治療時に、医療機器を目にすると緊張感や圧迫感を覚え、その後の治療に不安を残してしまいがちである。今回の研究では多くの人々に「医療機器」に対する視覚的イメージの改善を目指す。

## 2. 調査と分析

治療機器に対するイメージ調査や、治療風景、現場の生の声、また各歯科医院ごとのアンケートなどの調査を行った。調査の結果から、治療機器に対して女性からの圧倒的な不安な声が多くあったため、ターゲットユーザーを女性に設定。

機器に対する不安な声として多いのは、機器を目にした第一印象での緊張感や圧迫感を感じる事。これは、ハンドピースやそれに付くチューブなどが直接見えている事で機械自体が無骨に感じとられている。また、ハンドピース自体がむき出しの状態にあるためホコリを被りがちであり、それをいざ使用する際に患者に対してハンドピースが清潔感に欠けているイメージがついている。

治療機器には3つのパターンがあり、患者を覆うようなタイプ等があるが、自分を覆うため圧迫感があるという意見が多かった。アンケートをとった中でカート式の機器が安心感があると判断されまた、医師からも狭い環境の中で移動できるカート式をデザインモチーフに決定。

次にカラーに対するアンケートでは、原色のカラーよりもパステル基調のカラーの方が温かみがあり、安心感があると判断された。

よって調査結果から、ハンドピース等が患者の位置から直接見えないような工夫や、ハンドピース等の清潔感への配慮、また機器自体の圧迫感の解消やカラーリングの工夫が必要。

## 3. コンセプトの立案

デザイン目標は「気持ちを落ち着かせる事に気を配った歯科医療機器」

以上の事を踏まえてコンセプトを実現するためのキーワード

- 緊張感を持たせない機器のデザイン（カラー）
- 清潔感に配慮した医療器具のレイアウト
- 上記を実現する上で医師の負担や作業のマイナスが出ないような配慮を行う。

## 4. デザイン展開

患者への第一印象を優先としたアイデア展開を行っていった。

初めに全体のデザインとしてカート式のフォルムを従来の箱形から丸みをうまく利用し「優しさ」を表現。

次に緊張感を和らげるために、今まで直接見えていたハンドピースやチューブを機器内部に格納する事で、スッキリとした外観にし一体感を持たせまた、ハンドピースがホコリに直接被るのを防ぐ。そのような事によって機器に対するイメージと清潔感の緩和ができた。また、格納する事でハンドピースなどを出し入れする必要があるが、医師の意見を聞いて手でスイッチを押し出し入れの操作をするのではなく、足で操作を行う事で手を汚さずに済むように行った。

機器のカラーリングは、全体にパールホワイトを使用し、院内にある他の機器や環境との統一感と優しさを表現した。また、パステルイエローを機器の取手とフットスイッチ部分に使用する事で、カラーのアクセントポイントをつけた。

## 5. 完成図



## 6. 結論

患者からハンドピースが見えなくなりスッキリしたという意見や、カラーが良いという意見ももらったが、イエローの部分を柔らかくした方が良いという意見もあった。ハンドピースの清潔感は改善されたが、全面の取手の部分にホコリが溜まってしまわないかという課題も残った。